

台風一号の影響も消え、梅雨入り前の気持ちの良い陽気となりました本日、本校の完成記念式典に当たり、さいたま市長 清水勇人様、さいたま市議会議員 江原大輔様、竹居秀子さいたま市教育委員会教育長をはじめ、多くの御来賓の方々の御臨席を賜り、1年生から6年生までの全生徒に向けて式辞を申し上げることができますことは、校長として感慨無量であります。

さて、本日の行事は、その準備から進行まで、2年生から6年生までの有志生徒12名からなる実行委員会によるものです。他にも大勢の生徒が手伝ってくれていました。これこそ本校における生徒本位にして探究型の学習活動の成果だと自負しております。御来賓の皆様も、もはやそのことは驚くに値しないと感じになられているのではないのでしょうか。

この完成記念式典には密かに目的とテーマがあります。まず、目的はこう設定しました。「5年間の歴史を振り返り、学校全体と関係コミュニティが共に歩んだ成果を再確認し、本校の特色を内外に発信することを目指す。」ここで言う「関係コミュニティ」の最たるものは、市長を代表とするさいたま市であり、議長を代表とするさいたま市議会であり、教育長を代表とするさいたま市教育委員会であり、そして保護者の皆様、地域の皆様です。

本校が認定を受けている国際バカロレアは、「学校コミュニティ」という呼び方で、こうした様々な関係者との連携、協働をとっても重要視しています。本校がこれまでの5年間、コロナ禍においてさえも、新しい学習スタイルの歩みを止めずに今日を迎えられたのも、こうしたコミュニティの皆様の深いご理解と温かいご支援があったればこそ、できたことです。心から感謝申し上げます。

次に、テーマはこう掲げました。

「躍進の歩み—激動の5年間とこれからの MOIS」

お陰様で本校は、開校以来5年間で多くの取材や視察を受け入れて来ました。とりわけコロナが沈静化した昨年からは、全国の自治体の教育委員会や議会、国公私立の大学や高等学校、民間企業の経営者など、各方面から視察の方々をお迎えし、10日前には文部科学大臣ほか文部科学省幹部職員の皆様にも来校いただきました。そして、どのの方々からも驚きと感嘆の声をいただいて来ました。まさに「躍進」と言えるのではないかと感じています。

しかし、その道のりは決して平坦なものではありませんでした。試行錯誤の日々は、まさに「激動の5年間」でした。6年目の今年ようやく全校生徒が揃い、必要な数の教職員が配置されて、完成形となりました。完成形、即ち「形」として完成したということであり、「中味」はまだまだこれからです。テーマに掲げた「これからの MOIS」は、今ここで語れるものではありません。むしろ、いよいよこれから本校の「真価」が問われるのです。

生徒諸君の学習成果も、教職員の力量形成も、コミュニティの成熟度も、これから MOIS としての「真価」が問われていきます。

さいたま市の「シンカの10年」を掲げる清水市長によると、カタカナの「シンカ」には3つの意味があるとのこと。「進む」進化。「深める」深化。そして「真の価値」の真価です。

4月の始業式で皆さんに提示し、5月の全校集会でリマインドし、今日まで各自で考えを巡らせて貰った宿題「MOISの新時代に向けて～運命の5年からシンカの5年へ～」。

このカタカナの「シンカ」も同じ3つの意味のつもりでした。けれども、第1部の最後には、「伸びる」伸化と「振るえる」振化という造語も、生徒から発表されました。いずれにせよ、MOISの「シンカの5年」は、まだ始まったばかりです。5年後には、

1年生は6年生になっています。

2年生は成人となり卒業しています。

3年生はその頃、どんな進路を歩みつつあるでしょうか。

4年生は何処で何を学んでいるでしょうか。

5年生は何のためにどんな専門性を身に付けているでしょうか。そして、

6年生は、世界の何処でどんな「よりよい未来」をつくり始めているでしょうか。

これからの MOIS とは、即ちこれからの MOIS 生のことでもあります。そして MOIS の「シンカの5年」とは、決して他人事ではなく、在校中だけでなく卒業後も続く、MOIS 生全員の「シンカの5年」のことです。皆さん一人一人が、進み、深め、真価を発揮する5年ということです。生徒諸君、君たちのこれからの5年に、MOISの「シンカの5年」に、大いに期待しています。

結びに、御来賓の方々をはじめとする135万市民からの期待と御支援をいただく本校が、いよいよ「よりよい世界の未来」を切り拓いていく次なる一步を踏み出していくことを祈念いたしまして、さいたま市立大宮国際中等教育学校 完成記念式典の式辞といたします。

2024年6月1日

さいたま市立大宮国際中等教育学校長 関田 晃